

が昭和四十二年二月十四日没。なお西川副出身の原田文男大佐はノモンハンで戦死した。

大佐クラスとして戦後亡くなった鹿江出身の白浜藤三元陸軍大佐は、佐賀中学校でビルマ作戦の軍司令官をした牟田口鹿也中将と同期生であった。また筆者が個人的に少年時代、その名を知ったのは大正三年の日独戦争で戦死した横尾平少佐である。佐賀中学校の明治三十五年出で歌人の中島哀浪や高田保馬博士などと同期。陸士十六期陸大二十六期（大正三年卒）であった。また若いところでは東古賀出身の今泉金吾も陸大では恩賜の軍刀組であったが、南海の上空で戦死した。

川副町出身の軍人と戦死者は紙面の都合上掲載できないほど多いが、最後に現存者として新村出身の原田次郎元陸軍中将のことを簡単に紹介する。明治四十一年川副高等小学校を出て佐賀中学校に一学期在学後、熊本幼年学校、陸軍士官学校、陸大を経て陸士教官や陸軍省勤務が多く、第二次大戦では徐州の第十七師団

歩兵団長、ミンダナオ島の独立混成旅団長から経戦当時はフリーリップイン島の第百師団長であった。勲一等級四級。

八 富 豪 家

明治三十五年一月、佐賀県の富豪家一覧表の小冊子が発行された。富豪の根拠が課税額か、田畑その他動産不動産の価格か、はっきりしないが、約八十年前の富豪として、うち川副四カ村の人名が次のように記録されている。

中 川 副

弥富元太郎、村岡卯三郎、堤栄吉、弥富伴吉、岸川利三郎、久米富助、岸川助次郎、三好一八、宮原文藏、中原芳五郎、岸川峰吉、山田安一郎、前田七五郎、川浪治太郎、福島松兵衛、宮島大吉、北古賀儀

助、今泉佐七、糸山林三郎、松野傳三、野田卯八、木下勘三郎、森太一、砥川善作、山田伊三郎、田中ハル。

大 説 間

田原儀兵衛、仁位卯十、松枝善十、中島嘉、仁位熊吉、仁位佐一郎、宮崎秀吉、角町治平次。

南 川 副

吉武豪、横尾卯八、副島芳太郎、久保幸造、田村幸逸、鬼丸亀一郎、平野練藏、北村惣三郎、山本林三郎、吉田禎造、原キミ、江島卯平、原卯一、徳永増兵衛、北島與八、川崎亀吉。

西 川 副

福岡儀一、榎山叙臣、庄司兵三郎、井原惣太郎、大坪安太郎、坂田與右衛門、野田國松、南里與吉、松

永伊左衛門、中島久之助、今泉良子、黒田重雄、福岡善次、西村忠七、真島友吉、栗林惣七、西村忠兵衛、竹下清藏、本告佐左衛門、山田龍太郎、西村熊吉、内田助太郎、伊東文七。